

あなたは江戸時代の偉人

い な び ぜ ん の か み た だ つ ぐ

伊奈備前守忠次公をご存知ですか？

◆わが伊奈町の伊奈は忠次公の名前をいただき名付けられました！！

忠次公は、1550年に三河の国に生まれ幼少のころから人並みはずれた秀才で、志も大きく33歳で徳川家康に仕え治水、土木、開田等に力を発揮し徳川家の財政の安定に大きな貢献をしました。1590年徳川家康の関東入国後は武蔵国小室、鴻巣領1万3千石（1万石とも）を与えられ、小室郷（伊奈町大字小室字丸の内）に陣屋を構え代官頭として関八州（上野、下野、常陸、安房、上総、下総、相模、武蔵）の天領（幕府直轄地）を治め大きな功績を挙げました。忠次公は後に従五位下備前守に任じられています。

※上野（こうずけ）は群馬、下野（しもつけ）は栃木、常陸（ひたち）は茨城、安房（あわ）上総（かずさ）下総（しもうさ）は千葉、相模（さがみ）は神奈川、武蔵（むさし）は東京と埼玉と神奈川の一部

◆伊奈備前守忠次公が実施した主な事業は次のとおりです。

- 1550 三河国幡豆郡小島（愛知県西尾市）に伊奈忠基の11子忠家の子として生まれる
- 1582 家康の小姓衆小栗吉忠の与力に加わり三河に帰参、家康から旧領小島のうち35貫文の地を与えられる
- 1589 遠江・三河・駿河・信濃・甲斐の5ヶ国総検地を奉行する
駿河・甲斐の各村に7ヶ条の郷村定書を発する
- 1590 小田原の北条氏攻めにあたり、東海道中の道路整備や富士川の舟橋を施工、並びに兵糧運送の任にあたる
伊豆国賀茂郡などに5ヶ条の郷村定書を発する
武蔵国小室・鴻巣領1万3千石を領知する
- 1591 武蔵国小室の関伽井坊を倉田明星院（現桶川市）に移し跡地に陣屋を設ける
各地に検地を実施する 併せて寺社領の寄進を奉行する
武蔵国蓮田の平源寺に制札を発する 倉田の関伽井坊に寺領を与える
- 1593 千住の入間川（荒川）に橋を架す
- 1594 利根川通りの会の川の締切工事を指揮する
- 1596 武蔵国大宮氷川神社の再建を奉行する
- 1599 この年後半に備前守の称号に改める
- 1600 関ヶ原合戦にあたり小荷駄奉行を勤める
下総国大川戸に陣屋御殿を設ける
- 1601 関ヶ原合戦後の所領配置に伴い家康御家人等の知行書立を奉行する
武蔵国二郷半領門明院や同領戸張氏等々に新田開発の定書を発する
- 1602 武蔵国大里郡河原明戸村の荒川から用水を引き入れ奈良堰を設ける



- 1604 大宮氷川神社領200石加増の差添書を発する
武蔵国児玉郡仁手村の烏川から水を引き入れ備前堀（備前渠）を開発する
「備前渠用水路」が世界かんがい施設遺産に登録されました。（2020年12月8日）
- 遠江国・駿河国・三河国総検地を奉行する
- 1605 江戸城普請の御手伝奉行を勤める 上野国総社領から代官堀を開削させる
- 1606 武蔵国二郷半領戸ヶ崎郷等に開発手形を発する
- 1608 武蔵国越ヶ谷郷の会田氏や葛西領宇田川氏に屋敷地授与の証文を与える
尾張国の総検地を奉行する
- 1609 武蔵国妻沼善ヶ島等の地を検地する 尾張・美濃国境の木曾川東岸に御園堤を築く
- （慶長年間） 荒川通り足立郡加納村に備前堤を築き綾瀬川への通水を調整する
- 1610 病没鴻巣勝願寺に葬られる

（一社）伊奈町観光協会では、「伊奈備前守忠次友の会」の会員を募集しております。

友の会は、平成23年に発足し忠次公の功績を顕彰するとともにその功績を広く啓蒙することを目的に、忠次ゆかりの地を巡るバスツアーをはじめ各種事業を展開しています。現在会員は120名を超え、伊奈町内はもとより上尾市・さいたま市、遠くは草加市・川口市からも入会されています。この機会に是非、江戸時代徳川家康の側近で敏腕を奮わせた、関東郡代伊奈備前守忠次の功績にふれてみてはいかがでしょうか？

伊奈氏三代と徳川家 関東の水を治めて泰平の世を築く

- 【忠次】 表面・裏面（伊奈備前守忠次ものがたり）をご参照ください。
- 【忠政】 伊奈忠次の嫡男として生まれる。
徳川家康に仕え、慶長19年の大阪冬の陣では、淀川の上流を塞ぐ堤を築き、水を溜らして往来を自由にしました。
また、元和元年の夏の陣では、残党を追討し、敵の首30級を得る軍功を挙げました。
- 【忠治】 伊奈忠次の次子として生まれる。
関東郡代の初代として、関東及び東海筋の幕府直轄領の支配にあたり、特に関八州の治水工事、新田開発、河川改修に力を注ぎ、荒川開削、江戸川開削に携わりました。
また、江戸初期の利根川東遷事業を手掛け、鬼怒川と小貝川の分流工事や下総国、常陸国一帯の堤防工事を執り行いました。

※伊奈町・川口市・つくばみらい市は、伊奈氏ゆかりの地であることから、各種交流事業が実施されています。

神亀酒造（蓮田市）ご協力のもと、忠次公が開墾した綾瀬川流域で栽培された伊奈町産「彩のかがやき」を100%掛け米に使用した日本酒「伊奈備前守忠次」（生酒・純米酒）を販売しております。



（販売場所は伊奈町観光協会ホームページでご確認ください。）



発行：（一社）伊奈町観光協会

忠次プロジェクト推進協議会



ホームページ

伊奈氏屋敷跡・周辺「散策路」 アクセス
埼玉新都市交通伊奈線（ニューシャトル）丸山駅徒歩約10分



（短編版）



（本編）

伊奈備前守忠次

いなびぜんのかみただつぐものがたり

まんが / しげおか秀満



各地の有力者たちに荒地を新田にするよう、すすめたり―

土地の広さや米の取れ高を調べる「検地」などを行いました。



そして、慶長九年には河川改修にともない「備前堀用水」を作りました。



この用水ができたことで本庄市、深谷市、熊谷市あたりの田畑に水が引かれ、農作物の生産を高めることができました。



伊奈備前守忠次は天文九年、三河国小島(愛知県西尾市)に生まれ幼名は熊蔵家次と名乗っていました。

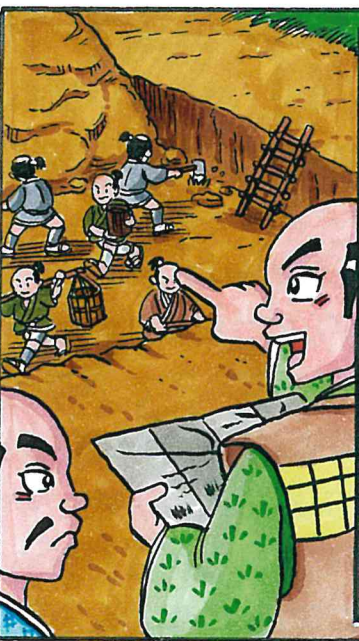
幼少の頃からとても優秀で、志の大きい子供でした。



後に忠次は徳川家康に仕え―



三河、遠江、駿河の三州を駆け巡り治水、土木、開田をすすめる住民の生活及び徳川家の財政の安定に貢献しました。



さらに豊臣秀吉の小田原攻めに主君家康の命を受け、軍の輸送などに軍功をたてました。



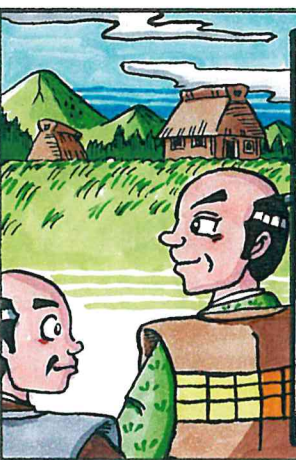
また、中山道その他の宿場の整備や加納備前堤・川島大田堤を築堤するなど、関東各地にわたり治水・土木・開墾等の事業に大きな功績をあげるとともに―



武士や町民たちはもとより農民に炭焼き・養蚕・製塩などをすすめる、さらに桑・麻などの栽培方法を伝え広めました。



家康の関東入国後、その功が認められ三河国小島の旧領地と武州小室、鴻巣領、一万三千石を得―



後に従五以下備前守に任ぜられています。



数々の功績をあげるとともに民衆の立場に立つて温情ある政治を施した伊奈備前守忠次は家臣や領民からも感謝と尊敬を受けつ―



慶長一五年、病のため亡くなりました。六一歳でした。



鴻巣市 勝願寺